

2024年3月25日

日本英文学会事務局御中

海外研究者招聘後援事業 申請書

(1) 国際学会の名称、日時、開催地ならびに運営母体

事業：国際アイルランド文学協会 2024年国際大会

(学会 HP: <https://iasil.jp/conference2024/>; 2024年4月公開予定)

開催期間：2024年8月5日(月)～8月9日(金)

開催地：学習院大学

主催：国際アイルランド文学協会日本支部「2024年国際大会」実行委員会

委員長：Andrew Fitzsimons (学習院大学)

事務局長：高桑晴子 (お茶の水女子大学)

委員：Beverley Curran (国際基督教大学)、小林広直 (東洋学園大学)、久保陽子 (日本大学)、真鍋晶子 (滋賀大学)、中村哲子 (駒澤大学)、下楠昌哉 (同志社大学)、虎岩直子 (明治大学)、吉野由利 (学習院大学)

共催：国際アイルランド文学協会

後援：学習院大学文学部、学習院大学人文科学研究所、アイルランド大使館

(2) 概要

‘Aftermaths’をテーマに、歴史上の重要な出来事がアイルランド社会と文化にもたらした影響を検討し、それがどのようにアイルランド文学、ひいては英語圏文学を形づくってきた/いるかを探求する。

基調講演者：5名 (アイルランドから3名、イギリスから1名ーオンラインによる参加ー、日本より1名)

ゲスト・アーティスト：3名 (アイルランドより1名、北アイルランドより2名)

研究発表者：131名 (日本英文学会員推定20名、それ以外111名; 3月20日現在)

上記以外の参加者30～50名程度を想定している。日本人参加予定者の多くが日本英文学会の会員であると考えられる。

(3) 本国際学会開催の背景と国際アイルランド文学協会日本支部について

本大会は、国際的なアイルランド文学の大会であり、23カ国から120～130名の発表者が見込まれている。日本での開催は Seamus Heaney を招聘した1990年京都大会以来であり、アジア地域での開催も7年ぶりであるため、ヨーロッパ、アメリカだけでなく、中国、シンガポール、韓国、台湾をはじめとするアジアのアイルランド文学研究者の関心も高い。

本大会を主宰する国際アイルランド文学協会日本支部 (IASIL Japan) は 1984 年 10 月に日本におけるアイルランド文学・文化の研究と教育の推進のために設立され、日本におけるアイルランド文学研究のフォーラムとして機能してきた。会員数は国外の会員を含めて 122 名であり、そのうち約 3 分の 2 が日本英文学会会員でもある。

国際アイルランド文学協会 (IASIL) は、毎年夏に 5 日にわたる大会を開催しており、長年学術団体としてアイルランド文学・文化の研究推進を目的として国際的な連携を維持・強化してきた。大会の開催地はアイルランド国内だけでなく、国外に幅広く求めており、アジア圏での開催数が伸びない中で、日本での開催について以前より要望が高かった。今夏の東京での開催は、対面だけでなくオンラインによる研究発表セッションも組み込み、また、若手の研究者の育成を支援する PhD フォーラムも予定されており、幅広く国際色豊かな学術活動を展開する画期的な日本発信の機会となると思われる。

(4) 大会テーマ ‘Aftermaths’ とその意義

アイルランドはその社会と文化に多大な影響をもたらした歴史的イベントとその ‘aftermath’—余波、なごり、痕跡—を数々体験してきている。グレート・ブリテンとの合同、大飢饉、イースター蜂起、北アイルランド紛争、「ケルトの虎」の好景気とその後、カトリック教会の性的虐待問題、そして最近ではコロナ禍とコロナ後の世界は、アイルランド文学の中で、ポストコロニアル批評、ジェンダー批評、環境批評等の観点から、探求されるテーマとなっている。このテーマは記憶と記念という概念とも密接に関係し、アイルランドがどのように歴史的な出来事を記憶し、記念してきたのかを問うことにもつながる。本大会は、歴史上の重要な出来事がアイルランド社会と文化にもたらした影響を検討し、それがどのようにアイルランド文学、ひいては英語圏文学を形作ってきた／いるかを探求するものであり、‘aftermaths’ をキーワードに、人間社会がどのように過去を理解し、未来を想像するのかという問いに迫るものである。

このテーマに沿った基調講演者として、Michael Cronin (Trinity College Dublin)、Tina O’Toole (University of Limerick)、Moynagh Sullivan (Maynooth University)、Clair Wills (University of Cambridge ; オンラインで参加予定)、および大野光子 (愛知淑徳大学名誉教授) が予定されている。また、ゲスト・アーティストとして北アイルランド出身の作家 Lucy Caldwell と詩人 Stephen Sexton、アイルランド出身の作曲家でアーティストの Stano が出席する予定である。

‘Aftermaths’ は今日性と普遍性を備えたテーマであり、本大会は、アイルランド文学研究及び英語圏文学研究のさらなる促進と、研究者同士の交流に寄与するものである。

(5) 来日する基調講演者の主要業績

- **Michael Cronin (Trinity College Dublin)**

Translation and Globalization (Routledge, 2006)

The Expanding World: towards a politics of microspecion (Zero Books, 2012)

Translation in the Digital Age (Routledge, 2013)

Eco-Translation: translation and ecology in the Age of the Anthropocene (Routledge, 2017)

Eco-Travel: journeying in the Anthropocene (Cambridge University Press, 2022)

- **Tina O'Toole (University of Limerick)**

Dictionary of Munster Women Writers 1800-2000 (Cork University Press, 2005)

Irish Literature: Feminist Perspectives (Carysfort Press, 2008; co-edited with P. Coughlan, P.)

The Irish New Woman (Palgrave Macmillan, 2013)

Women Writing War: Ireland 1880-1922 (UCD Press, 2016; co-edited with McIntosh, G. and O'Conneide, M.)

Reading Gender and Space: Essays for Patricia Coughlan (Cork University Press, 2023; co-edited with Fogarty, A.).

- **Moynagh Sullivan (Maynooth University)**

Irish Postmodernisms and Popular Culture (Palgrave Macmillan, 2007; co-edited with Mulhall, A. and Balzano, W.)

Facing the Other: Interdisciplinary Studies in Race, Gender and Social Justice in Ireland (Cambridge Scholars Publishers, 2009; co-edited with Farago, B.)

Mama/L: Maternal Imaginaries in Contemporary Irish Culture (forthcoming)

(7) 申請者

高桑晴子 (お茶の水女子大学) 国際アイルランド文学協会日本支部「2024年国際大会」実行委員会事務局長

吉野由利 (学習院大学) 国際アイルランド文学協会日本支部事務局長・国際アイルランド文芸協会理事

中村哲子 (駒澤大学) 国際アイルランド文学協会日本支部会計・国際アイルランド文芸協会理事

下楠昌哉 (同志社大学) 国際アイルランド文学協会日本支部理事

中尾まさみ (東京大学) 国際アイルランド文学協会日本支部理事

(8) 海外から招聘する3名の基調講演者の経費試算

- 宿泊費
 - Michael Cronin 10,800 円×6 泊 (8月4日~10日) = 64,800 円
 - Tina O'Toole 10,800 円×5 泊 (8月4日~9日) = 54,000 円
 - Moynagh Sullivan 10,800 円×6 泊 (8月4日~10日) = 64,800 円
- 参加登録費 35,000 円×3 名 = 105,000 円
- 謝金 50,000 円×3 名 = 150,000 円
- 航空券
 - Michael Cronin (Dublin-Tokyo) 380,000 円
 - Tina O'Toole (Cork-Tokyo) 380,000 円
 - Moynagh Sullivan (Dublin-Tokyo) 380,000 円
- 総計 : 1,578,600 円

現在、科学研究費補助金（基盤研究 C「ロマン主義時代のイギリス女性作家の小説における「ナショナルな想像力」」課題番号 21K00341）、学習院大学学会援助金、学習院大学客員研究員助成金（短期）、学習院大学人文科学研究所からの研究助成金および参加者の参加登録料（専任教員 35,000 円、学生・定年退職者等 15,000 円、オンライン参加 15,000 円）の一部によって基調講演者の航空券代および宿泊費を充当する予定です。それ以外の経費は、会場費や学生アルバイト料等を含め当委員会が負担することになり、より開かれた大会を目指し、学生や定年退職者、テニユア職をもたない会員の参加費を抑えているため、資金的には極めて厳しい状況です。ぜひとも日本英文学会の後援をいただきたく、ここに申請いたします。

本後援事業に採択となりましたら速やかに日本英文学会からの支援を準備中のポスターに追記して配布およびウェブサイトからの発信を開始し、プログラムにもその旨明記いたします。

ご高配のほどお願い申し上げます。

国際アイルランド文学協会日本支部
「2024 年国際大会」実行委員会事務局長
高桑晴子